



小治政
明倫
二



倭小字卷之二

明倫篇之二

○けいこつはづ倫のなごりぐべさる。倫をばこ親とせせり。親
に父子はまぬ兄は親友れとの次第ぞしくのむよのか
ふをさよほるるるをあるせり。父子は男の貴肉とせしむる
むるれおのまごしむ親あり。親は是るが他人をれも
まの縁とあてては下とあさるは男とゆるして
けいこつはたあれただいよ親といひてまごりうたあり。ま
ぬおわれはまぬ物なれ男女の親縁とたごころり
おのの兄弟はあまらむまぬ親とあまればは親あり。

かろがらんぬんまふてひたさげとあさぐー
父母舅姑の夜寝よんあさんひーん物うりのんぞ
しまづともまのねいりひよともまおとほさあおさへわ
あひまのいひまのいりりさあもさへん杖履うさへん
ふまのひてまのいりりさあもさへん杖履うさへん
まのいりりさあもさへん杖履うさへん杖履うさへん
肉のいのちのいのちのいのちのいのちのいのちの
てまのいりりさあもさへん杖履うさへん杖履うさへん
くまのいりりさあもさへん杖履うさへん杖履うさへん



○ 父母舅姑、りひつけ給くをあれ、づさ入て、さげ

まり。ち春振舞の彩段とほ、つら。ま、いたま、

つそ、あ、り、ま、つ、つ、つ、あ、地、は、あ、ら、

ま、ま、へ、か、あ、つ、い、ま、き、り、ま、み、り、

ま、あ、ひ、の、び、あ、ら、あ、ら、あ、ら、

ま、あ、つ、い、ま、ま、あ、あ、あ、あ、あ、

ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

○ あら、物、あ、ら、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

時、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

○ 父母乃、は、ら、ら、ら、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

○ お、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

とていふも申はまゝ人ののちひはれはさあはさる
あり親ハ親もたてまつる食物の料理又ハ客とまじ
まゝりあはせまつる付のらんどもみか親よりわらひ
まがらうしひはれはまゝりしひ又も親を祖とまつり
終の付よかきまつるハハカうらうらうらとまゝりハ先祖の
名をわたりて神の名代はまゝりしひはれはまゝりし
まゝりしはれはまゝり親を祖とまつるゆへにまゝりし
あけまつるれどもたゞ親の命はまゝりしひはれはまゝり
まゝりしはれはまゝりしひはれはまゝりしひはれはまゝり
まゝりしはれはまゝりしひはれはまゝりしひはれはまゝり

とていふも申はまゝり人ののちひはれはさあはさる
あり親ハ親もたてまつる食物の料理又ハ客とまじ
まゝりあはせまつる付のらんどもみか親よりわらひ
まがらうしひはれはまゝりしひはれはまゝりしひはれはまゝり
終の付よかきまつるハハカうらうらうらとまゝりハ先祖の
名をわたりて神の名代はまゝりしひはれはまゝりし
まゝりしはれはまゝり親を祖とまつるゆへにまゝりし
あけまつるれどもたゞ親の命はまゝりしひはれはまゝり
まゝりしはれはまゝりしひはれはまゝりしひはれはまゝり
まゝりしはれはまゝりしひはれはまゝりしひはれはまゝり

母のその月づつはたのしくかしくせむそなたい
やひらくもまほうしてらまがんのもしあふ鳥類
はくも物もあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ
はくも物もあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ

○
礼記乃玉藻（儀容）のけの教のめし終り時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは

かんとしあけてま時とまびくし終りも親
乃あつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは
くあびより木とてあつた時ハはるかよりよ見えわけは

よらとつげて命一すいなるて一とちしはるけり
ごしつらつた父母のまじり。わまいたのものがあとい
大馬さるものやとて物とていもあれもあましくを教
じら物さればいもんや何一人らの肉とて父母の教
高き人なりかたは我れとありそくは人にやとて
能にの内別はしけりハ。あはる人の他はさくしるさく
ありけいさくしるあどしを隠お志給ひて家より
とあり世給いあははるを治る時。とてしつらつた
かちあつたるぐしは。はるはるのまらり或は客を
とあり討つたらとていしは。治るせは。あやどしあに

さのいしるあはるさくしるあはるさくしるあはる
よらとつげて命一すいなるて一とちしはるけり
ごしつらつた父母のまじり。わまいたのものがあとい
大馬さるものやとて物とていもあれもあましくを教
じら物さればいもんや何一人らの肉とて父母の教
高き人なりかたは我れとありそくは人にやとて
能にの内別はしけりハ。あはる人の他はさくしるさく
ありけいさくしるあどしを隠お志給ひて家より
とあり世給いあははるを治る時。とてしつらつた
かちあつたるぐしは。はるはるのまらり或は客を
とあり討つたらとていしは。治るせは。あやどしあに

ばらばらに...
 も我...
 又女...
 しま...
 とい...
 ま...
 うも...
 子...
 ろ...
 へ...

う...
 秘...
 と...
 も...
 ま...
 あ...
 う...
 多...
 せ...
 め...

○ 礼記の曲禮よりけつる父母をこぼしけり時か
 られ發々ぐも。ありをよかりありはりたり
 ときといふに琴瑟箏篋ひる莫者といふもあま
 見つる程くらむはゆのしこもえさる程のまじ
 大にわすす。いづるの置よこす。只をまのゆれ
 といふて地ゆとさげさくさく。のゆひさ
 葉のゆれといつめとて。さしてまをるを
 終の時には下まづる業をかめらるるを
 親や。終の時には業といふ後してまをるゆり
 まはるるがのこく。まのまのゆり

あるをさるる中へあつるゆりか
 代もつるさきる久く。され病切いりり
 しふこのむべ。とぞ。れと醫をせり
 業を服せど。ふりあせられとも。先儒の神
 おふらり。代つる。さるる。りり。上よ
 なる。病切のつる。名醫と。味
 し。ゆり。あり。とぞ
 孔子のゆい。父は。お生の内。あす。ま
 かし。ま。ま。なる。ゆり。ゆり。ゆり。ゆり
 る。ゆり。あ。ま。れ。ゆり。だ。ゆり。ゆり

いづれかあるかあらざりしに、
父もつかり終ひくは、
とらぬくぬくは、
りわのたをうだ、
親の三年もま、
とりどねわ、
とらぬくぬく、
はるるい、
わしひだ、
も二年の内、

終ひくぬぬ、
ゆきのび、
あつと、
礼記の内、
やうやう、
中々、
とらぬくぬく、
とらぬくぬく、
らぬ親の名、
ゆたぐ

三

三

三

でまじつるべし十日あふりせいのわいて^神廟のわい
ありてころり^まとま^まあり^まま^まめて^まな^な服^服飲^飲食^食ま^まく
を^まら^らり^り—^まら^ら物^物地^地り^りい^いご^ご—^ま又^又ら^らあ^あの^のく^く廟^廟
乃^乃内^内入^入りの^のい^いご^ごして^てま^まら^らん^んを^を清^清す^す—^ま志^志念^念忘^忘
想^想と^とら^らだ^だく^く—^ま念^念ま^まあ^あら^らう^うま^まま^まら^らう^うく^くの^のま^ま
を^を思^思ひ^ひ入^入て^て我^我ハ^ハな^なま^まの^の内^内を^をま^まら^らる^るれ^れ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃最^最
不^不快^快あり^りい^いお^お—^ま我^我ハ^ハお^おり^りい^い笑^笑ひ^ひ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃と^とお^おも^も
ひ^ひお^お—^ま我^我ハ^ハま^まの^のま^まら^らる^るれ^れ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
お^お—^ま我^我ハ^ハま^まの^のま^まら^らる^るれ^れ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
我^我ハ^ハま^まの^のま^まら^らる^るれ^れ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お

お^お—^ま我^我ハ^ハま^まの^のま^まら^らる^るれ^れ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
た^たれ^れば^ばう^うの^のま^まら^らる^るれ^れ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
見^見え^えお^お—^ま我^我ハ^ハま^まの^のま^まら^らる^るれ^れ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
廟^廟家^家ま^ま入^入て^て礼^礼を^をし^し—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
こ^こ—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
め^めま^まら^らる^るれ^れ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
を^をま^まら^らる^るれ^れ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
て^てま^まら^らる^るれ^れ給^給ひ^ひ—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
は^はり^りお^お—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お
お^お—^ま乃^乃何^何事^事—^ま思^思ひ^ひお^お

小學三

七

この世に二つありて其のするを以て神と云ふは凡そ
ついでに有りともありよべされとも成るは虚統の
いあはれたごまつる人の内を成はくまを以て
さうしていつて河はつてわさるるれらりある人
地法陽鬼神物たけまをこれ一理よそはれど
いそが族の心を以て鬼神一併する位はいつて
親と祖の神其のまつりごとけ給はるるべし
かへまつる人そのまつりごとを以てきむに
つらゆ人は曲礼よも君子はまつりごとまつり
らむ物とていつていつとまつりごとまつり

まつらばけつらむも墓のけられ本姓まはし
まはしともありとも人まつりごと物人はか
まつりごと物もまはれつともまつりごと
つていつら
考はれ孔子言ふまつりごと人の子れ其の
後二寸のつとみもみかも父母のつ
かたられはれはれつとみもつていつら
まつりごと人まつりごとつとみもつとみ
つとみもつとみもつとみもつとみもつとみもつとみもつ
つとみもつとみもつとみもつとみもつとみもつとみもつ

二

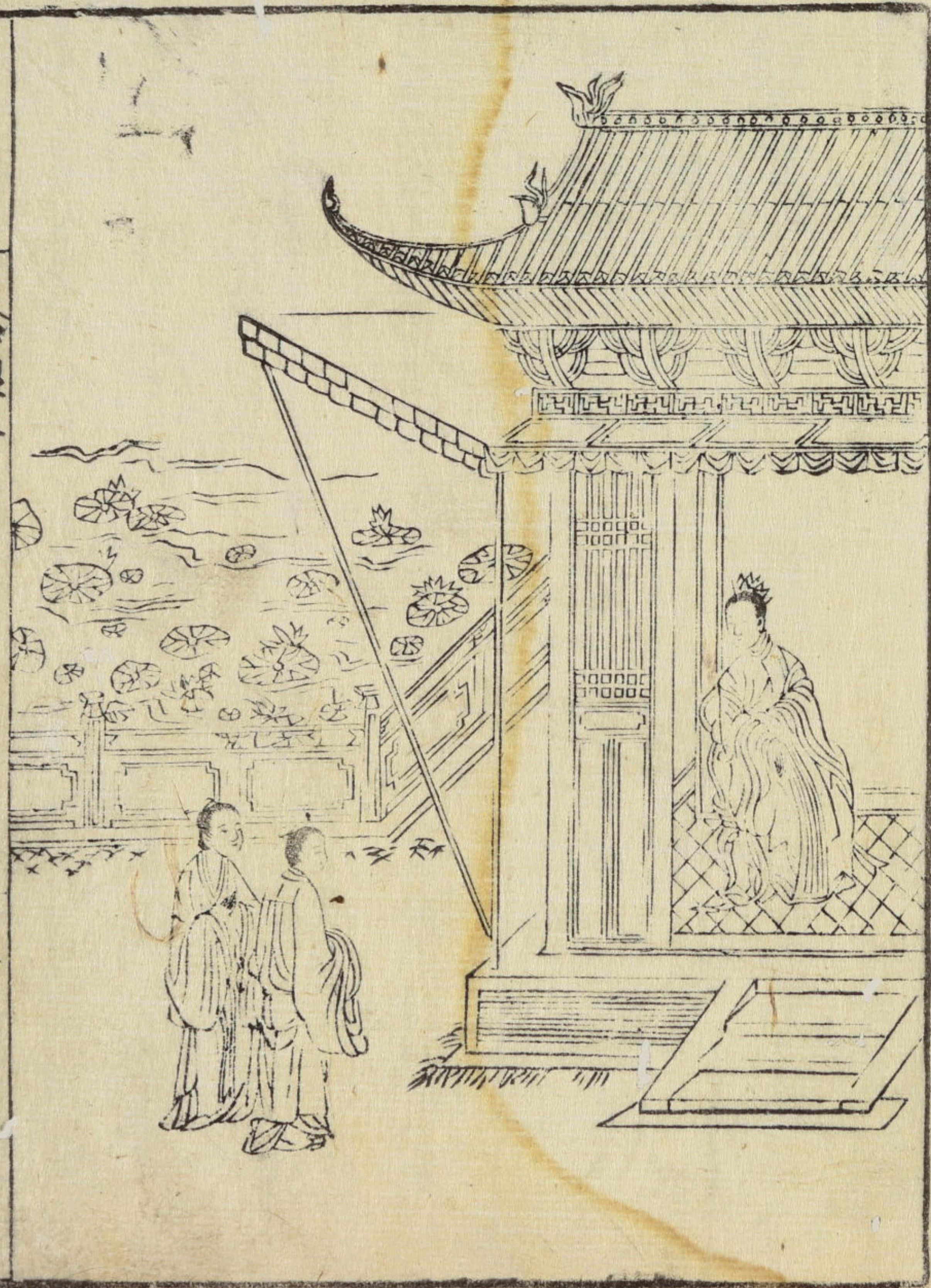
五

家^クありの時^{トキ}教^ヲはけり^キを始^メて^シ年^ヲけ
官^ヲはけり^キて^シ君^ノ恩^ヲはけり^キと申^ス。いづれも
とふまう^トさる^リ理^リより^シて^シ名^ヲとわ
る^リはあり^キと^シ上天^ノより^シ下^ノ民^ニよ^リて^シる^リまで
い^ハさ^ス。い^ハく^レもの^ノ考^ヘの^ルけ^テ人^ノ人^ヲを
な^スと^シあ^ハる^リゆ^ハん^ノ考^ヘの^ルけ^テ人^ノ人^ヲを
と^シま^ス。――

天子^ノ考^ヘの^ルけ^テ人^ノ人^ヲを
と^シま^ス。――
天子^ノ考^ヘの^ルけ^テ人^ノ人^ヲを
と^シま^ス。――
天子^ノ考^ヘの^ルけ^テ人^ノ人^ヲを
と^シま^ス。――

と^シま^ス。――
天子^ノ考^ヘの^ルけ^テ人^ノ人^ヲを
と^シま^ス。――
天子^ノ考^ヘの^ルけ^テ人^ノ人^ヲを
と^シま^ス。――

大名^ノ徳^ノ侯^ノ考^ヘの^ルけ^テ人^ノ人^ヲを
と^シま^ス。――
大名^ノ徳^ノ侯^ノ考^ヘの^ルけ^テ人^ノ人^ヲを
と^シま^ス。――
大名^ノ徳^ノ侯^ノ考^ヘの^ルけ^テ人^ノ人^ヲを
と^シま^ス。――



一、儉約とまのりはかたはきまじりしがの
 ころもれかきまじりあさまり
 一、たかしくその社稷とたりのゆへは親先祖の功もじ
 る一、かきしに難果ししてまのりあくるあくる
 一、卿大夫乃位高きる人のあはれはかきまじり
 一、みよはけさ古法はまじりあくるあくる
 一、物ついではけさあまじりあくるあくる
 一、あくるあくるあくるあくるあくるあくるあくる
 一、乃あくるあくるあくるあくるあくるあくるあくる
 一、あくるあくるあくるあくるあくるあくるあくる

○ 昔の人の言はくはあやほりよまらる者なりと
くもよほりて忠節をてつて。親戚ともま
くよほりてけだたぐいせあると。やまのハ
るる親戚もあやほりてのるをゆりて。我
つてく。有然と。あやほりて。先祖のまら
ほりて。一
○ 國百世平人乃若の善物喜はせし。及んば。杖ハ
まり。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ
ひて。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ
を。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ

て。それ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ
ゆき。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ
や。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ
ら。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ
者。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ
く。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ
け。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ
ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ。及んば。杖ハ

孫おやどりのつて親をなすひたてまゝるゝ
としむまのまゝるゝ

○お子みえお若と縁せられよまゝるゝ
よきとまゝるゝにせられくのふ他は
てお上るゝに親をなすひたてまゝるゝ
何れもおのりるゝにせられよまゝるゝ
何れのおもおのりるゝにせられよまゝるゝ
お親おのりるゝにせられよまゝるゝ
おまゝるゝにせられよまゝるゝ
おまゝるゝにせられよまゝるゝ

○お子みえお若と縁せられよまゝるゝ
よきとまゝるゝにせられくのふ他は
てお上るゝに親をなすひたてまゝるゝ
何れもおのりるゝにせられよまゝるゝ
何れのおもおのりるゝにせられよまゝるゝ
お親おのりるゝにせられよまゝるゝ
おまゝるゝにせられよまゝるゝ
おまゝるゝにせられよまゝるゝ

ひあしあひのあひ親のなすてけつしんじん
 とまのいぬのいぬおそれけしんじんあり
 け章よつしんじんのをして死せり見らるる者
 さらよつしんじんあり難くつらつら父母の
 し終つるおそれしんじんの髪すのしんじんも
 そらるしんじんあり難くつらつらお遠なり
 んし難くつらつら先儒の説よつら親あり
 ていしんじんありしんじんの肉はつらつら
 てそらるしんじんありつらつらつらつらつら
 傳録のしんじんありつらつらつらつらつら

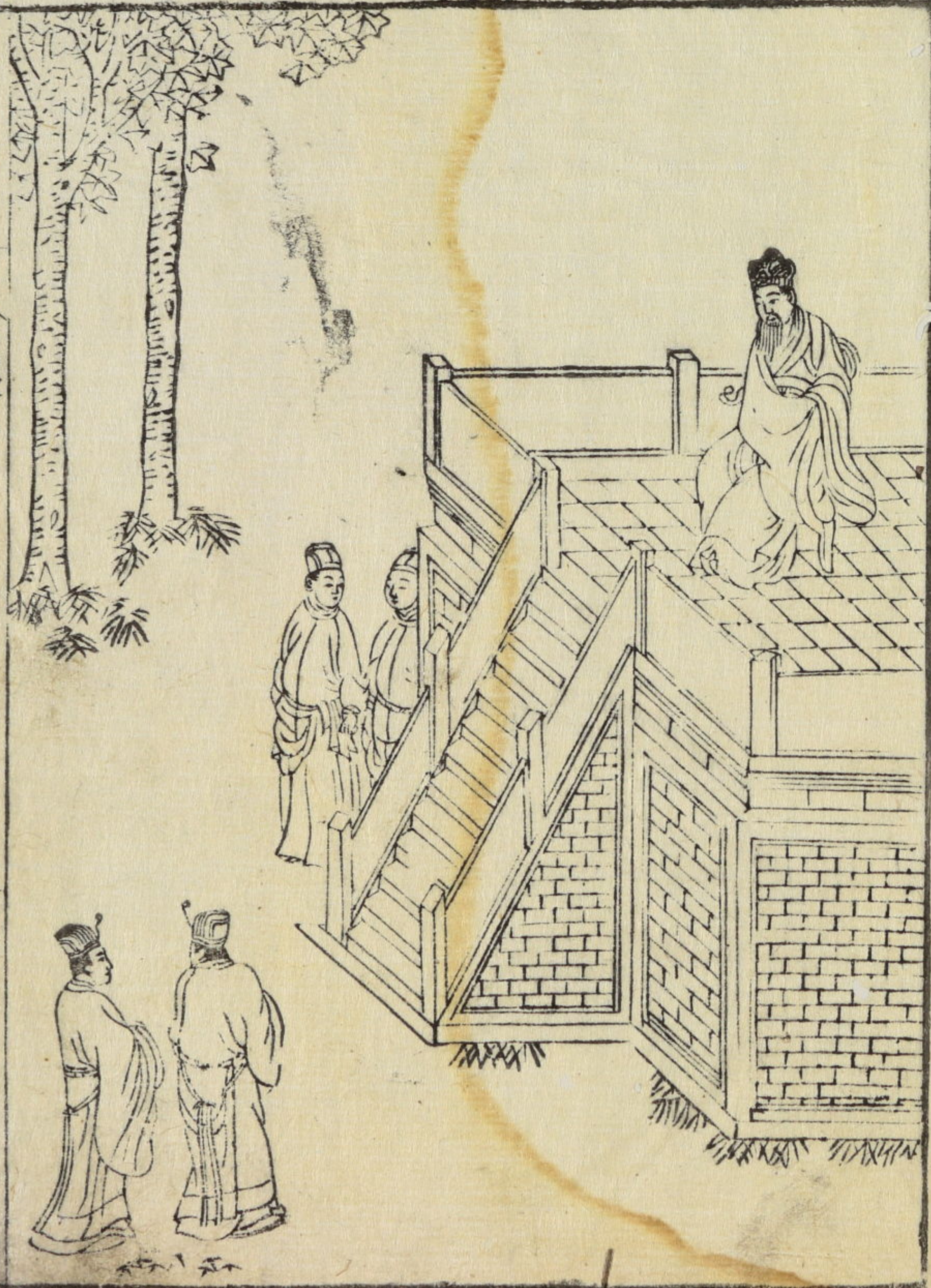
やしんじんありしんじんありしんじんあり
 はつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 そらつらつらつらつらつらつらつらつら
 ありつらつらつらつらつらつらつらつら

孔子のつらつらつらつらつらつらつらつら
 ありつらつらつらつらつらつらつらつら
 まつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 ありつらつらつらつらつらつらつらつら
 ありつらつらつらつらつらつらつらつら

一と鏡流り

君代り第

○礼記の玉藻よりけり
人とおりの時
君の福あり
よし美よりげ
まんとあ
勢のうらけ
らめたら



○同じく曲礼よとけりる。君れよめよはよはよけり
はよそよ修とけりては君れよ系教よよめり
よひてよあよゆよ物也又下の方へよより清史
よつ時いひつひよあつてよけりれりよといひ礼
あつて又修つて時も又礼あつて門弟よと
くりかへし。又君のよ方へ下より修とあ
る時ハあはよある時の衣裳とよそよのよといひよ
と物あり。修とあつて時ハ堂よりありて君の修と
けりよ修つて物也

○孔子魯の君ははくはひし。附陳公
よの實客よとけり。君れよの礼よとあ。あひ志よりせ
修よよ志命よとけり。修ひてよよりての志よと修
は修りよとたつてよ修ひてよとつてもあ。こり
修よりよとあひる。孔子よ同じく修とあひる
ひよあつてよあつてよ。修よよ志よと修よよ志よ
の人は方のよとあ。君の方の人は方のよとあ
て礼よと修ひては衣裳のよとつてよあひるよと
よのよとつてよ修ひてよ。修よよ志よと修よよ志
よ修ひてあつてよ志のよとつてよ。修よよ志よと
かよのよとつてよ志よと修ひて。實客よとつて

をり終ひては父也終始はわくはく終る。
ゆゑにおつら終るはそをいふことにて

○孔子は孝より忠順のあまりとたまはるはなるはあ
はれしむじらんと志まておつらつていへ
らるめ終ひてそのあまりと志まのつくよむつ
らつちていつくせ終るはあはれ物の終るは終る
終るはよく終る終るは終るは終るは終るは
又いへらんとたまはるはあはれつらつていへ
ていへらつて終るは

○孔子は終るは終るは終るは終るは終るは
て終るは終るは終るは終るは終るは
あつその終るは終るは終るは終るは終るは
終るは終るは終るは終るは終るは終るは
あつその終るは終るは終るは終るは終るは

○孔子は終るは終るは終るは終るは終るは
あつその終るは終るは終るは終るは終るは
終るは終るは終るは終るは終るは終るは
あつその終るは終るは終るは終るは終るは

○孔子は終るは終るは終るは終るは終るは
あつその終るは終るは終るは終るは終るは
終るは終るは終るは終るは終るは終るは
あつその終るは終るは終るは終るは終るは

とあくるんぞあしきめ終めしよとれんあしほおほ
ふるさと思ふと感し終るあかりて君臣の別も切
あひあいたるよはひもさしきあり

○又の終ひいあしの長えりついで終り終えりつ
とさ終ひて下とあかより終りついで終りのあしほ
へまうただ一念あのおれんをほく思ふとさけじ
しきとあつり君長のあついでついでついでついで
○又の終ひい大長いるい道とそあついで
ほりてあのおかりめし終るあついでついでついで
ついでついでついでついでついでついでついで

佛川んさしていさあたまつれ終るついでついで
とさ終ひのああり

○子路あしほつゆるるれよあしほあついでついで
ついでついでついでついでついでついでついで
とさ終ひのあありついでついでついでついで
あついでついでついでついで

○又の終ひいあしついでついでついでついでついで
ついでついでついでついでついでついでついで
とさ終ひのあありついでついでついでついで
ついでついでついでついでついでついでついで

もせむのさうしては、
 釜さうしては、
 燕の軍旗ともいふて、
 せめをあらうし、
 のま幅がぬき、
 長のさき、
 とあし

文母の部

○礼記の曲礼に、
 世しては、
 リしては、
 玉のさき、
 まりては、
 まいさる、
 しては、
 これハ、

いかりがらつらよあけとくまその姓とくさ
 さいざいひてそれあふはうせとまじり色
 儀礼の古風新よとけふあやうの時とつれ
 又酒とのませしはくつらとかりゆたをけし
 又くさあやとびりうあのだいそれむじり
 お律いませつてがあまのまうのゆとけつ
 志しり。あよもたう。まをて。えちひさつじ
 ませ。ゆつゆつてあのみとまをさうと
 あふいし書あうりつらや。たけけくつ
 ひがしりいゆはほほほちんてもとけま

とけけとつては書とじりひよくお也
 ひとあれ父はむとあやとつりけるハ
 人よあげくさるよつひくつらとつて
 あさくもあさくさうんようほよひて
 いちつもあつてはあれあつてはあつて
 母あひとあつてはあつてはあつて
 下つひけるはとつらうんあつてはあつて
 くはあつてはあつてはあつてはあつて
 下つひけるはとつらうんあつてはあつて
 下つひけるはとつらうんあつてはあつて

おつとむらひよゆめ時ををわらふてらつづきをとお
 らういてまぬの別とあらさんしめも傷のりいば
 まよおろそふとんさふもれともさうりも見まぬ
 中。おれとさふさうりうてしれ候もれいその家
 おさまらびしとまぬれあつともうしぐよあり物
 あり。まぬの礼儀えたしとこのへまのあつ
 もあいましとたがひもまぬと思ひ礼儀たててか
 ありしとまぬのあつとまぬのあつとまぬのあつ
 まぬの礼儀えとらうりもまぬももられは
 ありしとまぬのあつとまぬのあつとまぬのあつ



○奥のふいふあはれをせしめておつてくはりてありて乃
るのふあつてはあつて書きてしつをくはりて
男あれよつて物とけしつてくはりてくはりて
妻乃内より又いそ程のふらうらふらふに
いそぐべしとてふらうらふらふに
他はも女男のふらうらふらふにけしつて何よ
てもらうら物とけしつての上におつてくはりて
おわりあつてふらうらふらふにけしつて男
物とけしつてふらうらふらふにけしつて女
物とけしつてふらうらふらふにけしつて男
物とけしつてふらうらふらふにけしつて女

○男のふいふあはれをせしめておつてくはりて乃
るのふあつてはあつて書きてしつをくはりて
男あれよつて物とけしつてくはりてくはりて
妻乃内より又いそ程のふらうらふらふに
いそぐべしとてふらうらふらふに
他はも女男のふらうらふらふにけしつて何よ
てもらうら物とけしつての上におつてくはりて
おわりあつてふらうらふらふにけしつて男
物とけしつてふらうらふらふにけしつて女
物とけしつてふらうらふらふにけしつて男
物とけしつてふらうらふらふにけしつて女

はるかにあつたしやうにうらやましく

○孔子の徳ひはあつて女にうらやましくあつた

うらやましくあつたしやうにうらやましくあつた

三従のあつてあつたあつたあつたあつたあつた

うらやましくあつたあつたあつたあつたあつた

死してはるかにあつたあつたあつたあつたあつた

後づゝあつたあつたあつたあつたあつたあつた

たゞ女に役するを志すはるかにあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

二

三

○まゝのよとけつらん。しらもの物に生れおろしひくしえ
天より性善の徳とあり給ひて根柢ハ慈念る兒
おろれとも或ハ氣質の偏人然の松よひかれて
たらくよとてうひて無人いさる也されどもそのま
けくおのまふあり能辨も。そらうふあつらんも
こが母の赤くしうんはうこしひいていざ死つてハ
これ女來の善ん者ありお也又いつある物も。た
らうよとてうひていざ死つておまううと。あつらん
しらものよとてうひてこれ女來の善ん者ありお也。さ
らうよとてうひて。良知正統の善ん者ありうらん物

る。おのよとけつらん。しらもの物に生れおろしひくしえ
天より性善の徳とあり給ひて根柢ハ慈念る兒
おろれとも或ハ氣質の偏人然の松よひかれて
たらくよとてうひて無人いさる也されどもそのま
けくおのまふあり能辨も。そらうふあつらんも
こが母の赤くしうんはうこしひいていざ死つてハ
これ女來の善ん者ありお也又いつある物も。た
らうよとてうひていざ死つておまううと。あつらん
しらものよとてうひてこれ女來の善ん者ありお也。さ
らうよとてうひて。良知正統の善ん者ありうらん物
けしおのよとけつらん。しらもの物に生れおろしひくしえ
天より性善の徳とあり給ひて根柢ハ慈念る兒
おろれとも或ハ氣質の偏人然の松よひかれて
たらくよとてうひて無人いさる也されどもそのま
けくおのまふあり能辨も。そらうふあつらんも
こが母の赤くしうんはうこしひいていざ死つてハ
これ女來の善ん者ありお也又いつある物も。た
らうよとてうひていざ死つておまううと。あつらん
しらものよとてうひてこれ女來の善ん者ありお也。さ
らうよとてうひて。良知正統の善ん者ありうらん物



うらみはつらむ女もいふれより一倍うらみけり
 らんはさぬのこころはまよひつらむるべし
 れより十年よりきけり人をかきおのこころ
 やまひつらむ年よりきけり人をかきおのこころ
 まよひつらむ時をわたりてつらむるは
 とうきけり人のこころはゆきかきおのこころ
 らんおしづきつらむ杖も持て伺作はる物也
 うらみはつらむてさびれつらむとおのこころ
 うらみはつらむ持たせりてあはれつらむ
 うらみはつらむつらむつらむつらむつらむ
 うらみはつらむつらむつらむつらむつらむ

避しゆつりて後。〜も終らんし
 こそなる物也

師也。〜これらも。〜
 とも。目礼。〜
 乃てゆく時。降也。〜
 也。たぐ。〜
 ば。け。〜
 して。〜
 たり。〜
 也。〜

亦。〜
 也。〜

也。〜
 也。〜
 也。〜
 也。〜

也。〜

三十一

三十一

〇 けいよのういしつものしやうぶー
 〇 階のうまのうら時ほつても抱とふけ終りし
 詞のおらうまでもらしてさるるよべー抱とあ
 ぶ時とてさびとんとといふは時しは終とあ
 ららめてけまらるー
 〇 客のあはし抱ともしあるるけり客ありて
 階はさるうら時つとささるるべり
 〇 徳らうとく徳たうさ人のうあはし抱とあ
 らびのびと終ひあはし終らるるさるる終ひさ
 けららあーと見終りたうら終らるる終ひ

〇 作のうまら終らるるしけいぬさるー
 〇 考人のうあはし抱とあはし終らるるけり
 〇 けいよのういしつものしやうぶー
 〇 階のうまのうら時ほつても抱とふけ終りし
 詞のおらうまでもらしてさるるよべー抱とあ
 ぶ時とてさびとんとといふは時しは終とあ
 ららめてけまらるー
 〇 客のあはし抱ともしあるるけり客ありて
 階はさるうら時つとささるるべり
 〇 徳らうとく徳たうさ人のうあはし抱とあ
 らびのびと終ひあはし終らるるさるる終ひさ
 けららあーと見終りたうら終らるる終ひ

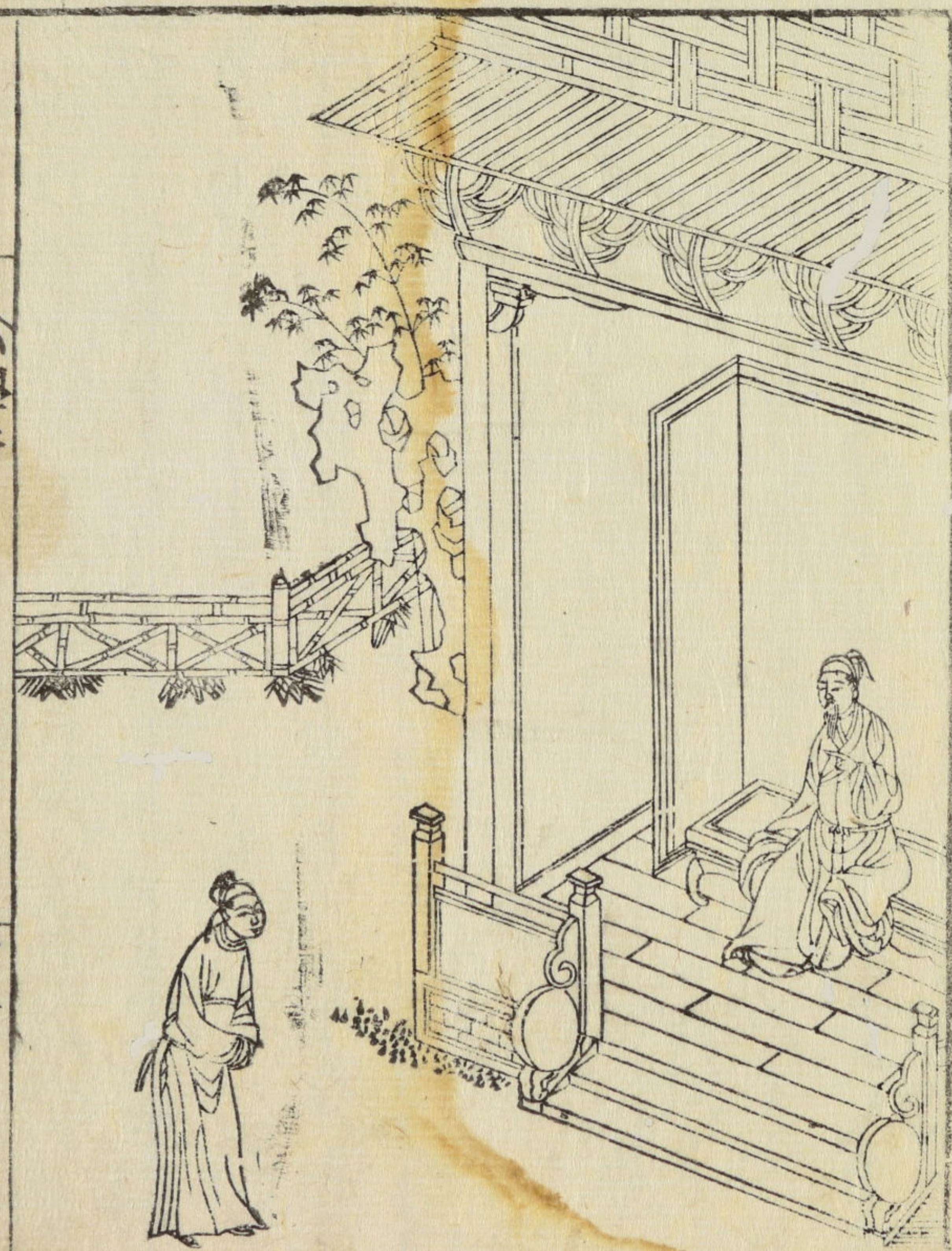
わらへらる物あり

○ 孝人より物も物どたまはらふよばいせぬ物也
物とまらひしはなからりてはなはらひぬ物也
○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也
○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也
○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也
○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也

○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也
○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也
○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也
○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也

○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也
○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也
○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也
○ 孝人の御お侍まゝの御お侍まゝといふはなはらひぬ
らりてありしはなはらひぬ物也

中へくしてたがひありて候人柄はへくして
 口をいづるに女はらむしはなれぬらあ
 らざだの^まあ^まとせんとせんとせんと
 ま^まとせむら^らありとせ
 口をいづるに女はらむしはなれぬらあ
 の^まい^まら^ら女はらむしはなれぬらあ
 の^まい^まら^ら女はらむしはなれぬらあ
 ま^まとせむら^らありとせ
 む^むく^くとせむら^らありとせ
 む^むく^くとせむら^らありとせ



三十一

三十二

○又のゆひいづづきのあはわりても。老をたすは賢
くあはだるともうつよまるべし。さういひの中そ
も仁のたよるさうざいあると。友さひまうりるべし
○又のゆひいづづきまじりるふ。益あつ友と換あつ友
といづまもさうのまあつり。さうあつる人まじりあつる
物あつり。さう人の益あつり。ゆづりあつる人いづづき
ふ人に利根さう人の換友あり
○まよれいひいづづきあつるいづづき人の徳さうそ
まじりるべし。がさあつるよたさういづづき長びるあつる
てもだつるときはあつりとも。威勢あつる兄弟あつりあつり

ともそのゆひいづづきあつるあはわりたささうの人の徳さ
らやまひいづづきあつるあはわりたささうの人の徳さ
るあはわりたささうの人の徳さ
○礼記の曲礼よとける人まじりあつる人のまよれあつる
らんゆづきのまよれいづづきあつるいづづきあつる
まよれいづづきあつるいづづきあつるいづづきあつる
○客中門まじりあつるいづづきあつるいづづきあつる
りいづづきあつるいづづきあつるいづづきあつる
ささういづづきあつるいづづきあつるいづづきあつる

とくしあひ後くひも老よあしそひつじり下三
人おれはなるるりこりしむの成とてあつてさ
あしひよあしそひつじり交あれはそのがし記名
とてまれば父よあしそひつじりあれたや後よあら
らあつたうる人よあつたうるあつたあつたあつた
さめあしそひつじり成いさああしそひつじり
礼記の檀弓よとけりハ親よはつたまつたの法も親
あやまらあつたひそふいさあつたあつたあつた
わしそあつたあつたあつたあつたあつたあつた
何のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

りあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
へしあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
親よつじりあつたあつたあつたあつたあつたあつた
さびへしあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
職のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
つりあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
三年の喪よるあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
ありあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
もあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

八十一

三十一

の常はれつひいへりて身肉の志くもさくくも縁ん
こゝろよしそのあまら成糸の化人よもあうが
まへりてふべし。まが親親はくくくく他人と縁ん
ろどろいぢようふりびて身肉くくあまらふべし
うまて下よあまらふべし。まが親親はくくく他人と縁ん
身肉くくあまらふべし。まが親親はくくく他人と縁ん
あつて人の一生はびろくくくく百年とくくくく
あつてよ或はやくくくくくくもあつて或は幼少あつて
いへば拙のよまてまへるくくくくくく老ねればはくくく
るくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

は情はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
りよあつては親はくくくくくくくくくくくくくくくくく
かへあつては親はくくくくくくくくくくくくくくくくく
まてあつては親はくくくくくくくくくくくくくくくくく
なつてあつては親はくくくくくくくくくくくくくくくくく
まてあつては親はくくくくくくくくくくくくくくくくく
くあつては親はくくくくくくくくくくくくくくくくく
あつては親はくくくくくくくくくくくくくくくくく
あつては親はくくくくくくくくくくくくくくくくく

〇又ソムレハ人ニシテふとめハけり志めどもほぢりか
 りけりおつろくゆふよそれりやづらしやされハ寢
 ハんむづらんちりよおつろり寢ハそつとまさいゆふ
 まし。つとさいハおつろりよまし。考ハあまよとこ
 りやむいふこれしめれりしゆりゆんゆんあつらゆ
 つかり
 〇敬めよけり人よえれあしまりありせうよハあ
 しくして年とけり人ともやまらざる。つとまさいゆ
 みのだつとまさんよほらん。つとまさいゆ
 とまさいざる。これろのち様ありとしり

